

かさま はっけん 笠間を再発見

リディスカバー カサマ
reDiscover Kasama!

だい かい
第6回
とうけい した
「陶芸に親しむ」

グローバル採用の

笠間市広報スタッフ

ナターリアが笠間の魅力を
紹介します。

ぶん | ザグミョンノワ・ナターリア
問い合わせ | 笠間市秘書課
(内線225)



陶雛 (2022年「製陶ふくだ」で撮影)



電動自転車で気軽に店舗を巡りました



登り窯の前で
(友達になった陶芸大学の学生さんと)



薪を窯に入れる陶芸大学の学生

笠間市に住み始めて、陶芸の魅力をを感じる展示会やイベントの情報が常に耳に入ってきます。少しずつ興味が湧き、これまでに陶炎祭、彩初窯市、桃宴、オープンアトリエなどに行きました。

去年2月には、かさまの陶雛「桃宴」のポスターに載っていた笠間焼の雛人形の段飾りが気に入り、レンタサイクルで参加店舗を巡りました。

雛祭りについては、日本語の教科書で読んだことがありますが、実際に陶雛を見た時、私の想像を越える美しさに感動しました。細かく作られた人物の形やかわいい動物の形から、抽象的でモダンなものまで、個性豊かな陶雛が並んでいました。作家さんと交流するのも、大きな楽しみの一つでした。

また、2月の終わりごろ、県立笠間陶芸大学の学生が笠間工芸の丘の登り窯で焼き物を焼く実習を、特別に見学させていただきました。先生方の指導を受けながら、4日間かけて日夜、交代で薪を窯に入れ、焼成が行われました。

登り窯の構造や焼き方について教えていただきましたが、昔、温度計がなかった頃はもっと大変だっただろうなと思いました。

眩しさを抑える遮光メガネをつけて、登り窯の中を見てみると、生きもののようきれいに踊っている炎が、薪と一緒に私の悩みも燃やしてくれたような気がしました。また、登り窯の中は激しい炎に包まれています、外は物静かな雰囲気、子どもの頃にキャンプで焚き火を囲んだ時間を思い出し、懐かさを感じました。

焼成中の登り窯の見学という貴重な体験は、私にとって特別な思い出になり、さらに陶芸を身近に感じる機会となりました。

皆さんから焼き物についての「#笠間市民ニュース」もお待ちしています。ぜひシェアしてください。

市のホームページではこの記事を英語で読めます。



市の話題やニュースをSNSでシェアしよう！



WEB版 (日本語・英語)▶

#笠間市民ニュースの詳細▶

英語で
なんて言う？

今回は「かさまの陶雛『桃宴』」を英語で覚えましょう！

セラミック ヒナ ドール フェスティバル トウエン Kasama Ceramic Hina Doll Festival "Touen"

「雛祭り」の英語訳の一つは「Doll Festival (人形祭り)」です。

「陶」を「ceramic」として訳し、「Hina」と「Touen」をそのままローマ字に変え、「Doll Festival」を追加しましょう。

このページは、日本語を勉強中の方も楽しめるように、「やさしい日本語」を意識してつくっています。